

国立大学法人豊橋技術科学大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

豊橋技術科学大学は、技術科学に関する教育と研究を通して社会に貢献することを使命とし、主に高等専門学校（以下「高専」という。）卒業生を受け入れ、豊かな人間性と国際的視野を持つ実践的創造的かつ指導的技術者を養成するとともに、国際競争力のあ
る先端技術の開発研究を推進し、我が国の社会、特に産業界の活力の創出に貢献すること
を目指している。第2期中期目標期間においては、大学入学者の大半を占める高専卒
業生の教育の強化のため大学院教育に重点を置き、レベルの高い基礎科学・教養教育と
その上に立った実践的専門・技術教育を交互に進める「らせん型」教育を学部・大学院
一貫で実施すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、学部3年次編入者の英語特別演習
や学部2年次のプロジェクト研究の充実、大学院科目の先行履修制度等について平成26
年度の教育カリキュラムに反映させることを決定するなど、「法人の基本的な目標」に沿
って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者
の育成を目指し、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構の3機
関が連携して教育改革を推進する戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでお
り、平成25年度においては、イノベーション指向人材を育成する場として「技学イノベ
ーション推進センター」を設置し、教員・企業・学生が協働する研究部門を立ち上げる
とともに、3機関（59拠点）をネットワークで結び、多地点接続及び双方向での講義・
会議等を可能とし、教育・研究の膨大なリソースの共有活用を促進するGI-net（グロー
バル・イノベーションネットワーク）を構築している。さらに、グローバル指向人材
の育成に向けた取組として、平成26年度からの教員FD（ファカルティ・ディベロッ
PMENT）事業の本格実施に向け、海外派遣先大学に教員の先行派遣や研修調査等を実施
するなど、教育改革を行うための体制や環境を整備している。

（機能強化に向けた取組状況）

学長が議長となり研究戦略を企画する「研究戦略企画会議」を新たに設置し、学長を
補佐する体制として、新たに特命担当、産学連携担当の学長特別補佐を設け、ガバナン
スの強化を図るとともに、平成26年4月から新年俸制職員を6名採用するとしているこ
とに加え、承継職員については、平成26年度中に年俸制を導入する方向で検討を開始し
ている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学独自のテニユアトラック制度における国際公募の実施に加え、テニユアトラック制度の中間審査で優秀な評価をされた者を任期の終末を待たずに常勤教員として採用するとともに、多様性の観点から特定職員就業規則の制定及び新たな年俸制の導入を決定するなど、優れた教員を確保に向けた取組を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の安定的確保、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 東海地区大学事務連携ネットワークによる、東海地区8大学で資金の共同運用を開始した結果、単独で資金運用をする場合と比較し、スケールメリットが生まれ、高い金利による運用が可能となり、運用益は平成24年度の約2倍となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 受け手の閲覧環境に配慮した大学公式ウェブサイトのデザイン等のリニューアルを行うとともに、顧問デザイナーによるオリジナルエコバッグの作成及び施設環境デザインの実施等を行うなど、魅力的な情報発信を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 医師免許を有する者を教授職として採用し、産業医資格を取得させ、安全衛生管理推進本部及び安全衛生委員会構成員とするなど体制を強化するとともに、相談可能時間を週平均 10.5 時間（平成 24 年度：3 時間）に増加させ、メンタルヘルス等に関する相談体制を強化するなど、安全管理に向けた取組を進めている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 22 年度に再編した学部(工学部)、大学院(工学研究科博士前期課程)の教育課程等について見直しを行い、学部 3 年次編入者の英語特別演習や学部 2 年次のプロジェクト研究の充実、大学院科目の先行履修制度等について平成 26 年度の教育カリキュラムに反映させるとともに、修士論文の成績評価方法等の判定会議議事録を作成し、教務委員会で検証・改善することを決定している。
- エレクトロニクス先端融合研究所では、次世代シークエンスの技術応用研究会及び 40 件のプロジェクトを実施するなど、異分野融合研究を推進、醸成するとともに、豊橋技術科学大学が主催する国際会議（The Irago Conference:アジア太平洋異分野融合研究国際会議）等により社会への研究成果の還元をしている。
- 従来の産学連携推進本部、研究戦略室及び技術支援に係る組織・機能を発展的に整理・統合して「研究推進アドミニストレーションセンター(RAC)」を設置し、教員、URA（リサーチ・アドミニストレーター）やコーディネーターを配置したことにより、研究力強化を推進するための中核組織として、迅速な意思決定が行える体制を強化している。
- 国際的な共同研究の実施に必要な各種契約書雛形等の英訳を行うとともに、顧問弁理士、顧問弁護士を選定し、日常的に相談を行うことができる窓口を整備することにより、国際的共同研究の推進を支援するための体制を構築している。
- 新たに、飯田市との連携・協力協定の締結並びに東三河ビジョン協議会企画委員会、同ワーキンググループ会議及び三遠南信地域産学官人財育成円卓会議ワーキンググループ会議の構成員になるとともに、「集積回路（LSI）技術講習会」、「最先端植物工場

マネージャー育成プログラム」、「地域地震防災コース」等の社会人の学び直しを目的とした講習会を開催するなど、社会連携・社会貢献を推進している。

- 海外教育拠点(マレーシア・ペナン校)開設の機会を利用して、豊橋技術科学大学に留学していた卒業生の会合を開催するとともに、次年度以降の3機関(長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構)合同の同窓会実施に向けた準備を行うなど、帰国した外国人留学生のフォローアップ、ネットワークの形成に資する取組を行っている。